

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	フォトグラフ		（ NGM10J ）
講義名（コード）	フォトグラフ		（ NGM10JX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	1
授業担当者	長谷川 胖	時間数	30
成績評価教員	長谷川 胖	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	（有）デザインルームエム 所属	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	テクニックや感覚だけではなく基礎からの積み上げが大切 自分で考えて『メッセージ』を伝える写真を撮影出来る
全体の内容と概要	SNSで映える写真～風景、人、物の撮り方など目に留まる写真とは～を、基礎から実機と実演で学びます。
授業時間外の学修	個人での自由撮影(予定)
履修上の注意事項等	スタジオ設置・別途講義との併用あり(予定)

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	写真・フォトグラフは何か写真の基礎を知る	VR・メタバース など視覚の錯覚を知り、写真・動画に生かす事かを学ぶ
2	写真表現に使える撮影テクニックを覚える	撮影における構図の組み立て方と表現に使える撮影テクニックいろはを学ぶ
3	バランスの良い写真撮影が出来る	振幅・波長の波の持つ性質のデジカメ・スマホ・撮影も理解するには、三角関数が欠かせないことを学ぶ
4	写真撮影に必須なレンズを知る	写真光学・レンズの仕組み・焦点距離・被写体深度・フォーカス(ピント)を学ぶ
5	写真撮影に必須な光のコントロールを知る	写真は光が無くては成立しない。光をコントロールする＝写真撮影のきもを学ぶ
6	写真撮影に必須なレンズの応用を知る	画角とイメージサークル・周辺露光低下と歪み・光軸とアオリ・被写体深度などの応用撮影基礎知識を学ぶ
7	綺麗な表現に欠かせない照明を覚える	照明から考える写真・表現に使える撮影テクニックをスタジオ形式で実践する実践する
8	アナログ時代とデジタル時代を知る	アナログとデジタルを知り、2進法・16進法などカメラの基礎を説明する
9	デジタル写真とは何かを知る	デジタル情報の可視化・センサーサイズと画素数 有効画素数などAdobe Photoshop 併用で学ぶ
10	光のコントロールの応用を知る	ライティング・色温度・輝度・照度・色相・彩度・明度・コントラスト～照明から考える写真を学ぶ
11	自己満足ではなく人に見てもらふ写真を撮る	情報の加工・縮小拡大・複製・合成・色の変更・回転・変形・明度・彩度・コントラスト・3DCGを学ぶ
12	デジタル化のメリット・デメリットを知る	加工の容易さ・機材・ソフトで大幅に時間出来栄えが変わりリアルかフェイクの見分けが難しい等を概論として学ぶ
13	メッセージのある写真撮影が撮れる	制作物を制作するにあたって一番大事なのは、そこにメッセージが無ければ意味が無い～を学ぶ。
14	まとめと解説	期末テスト(条件の中で『メッセージ』のある写真を撮ろう)
15	まとめと解説	フィードバック(みんながお互いに良い悪いではなくて主張・評価・理解できることがこれからのビジュアルの世界で活躍・生き残る大事なこと。)

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	担当教員のIT業界、写真業界での実務経験を活かし、写真撮影、編集、動画撮影、編集などを実践を中心に指導する。